

武州川越善行錄

下

9

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4

武州川越善行録卷下目録

裏慈忍寺村千蔭祖父兵藏

銀治町名主与吉清

今泉村平次尻権平

大谷新田名左衛門

下岩瀬村勝右衛門花妻

猪俣村源右衛門

廣木村大真寺

藤原村宇之助

川俣村元之丞

下原村組頭弥右衛門

下岩瀬村宗六

中曾根村清左衛門母茂よ

相上村安左衛門

笹村 勘左衛門

牛子村林茂

妙養寺門前 五富又新

下ノ一

武州川越善行録卷下

川越 栗原満啓集録

裏慈恩寺村子孫祖父兵藏

埼玉郡表慈恩寺村百姓子孫を以て同族とす乃を以て

家内又人有り之を以て一なり之を以て祖父とす

新夫婦極先の分を以て其の分を以て健康を以て農業を以て

出情以て孫子孫を以て其の分を以て不推乃や一なり

農業出情の事一なり其の分を以て村處乃若者少も

おも才一 御公儀の法法度を相まわす農業書に

出情のこころを以て教諭せしむ一邑を以ておさはり
將変諸物質とてたえてくれあさし
政府の御園の地一畝の特のりよは
まてを人扶持をたしめてその善行を賞せし家
於九十一年文化元年二月の事なり

銀治所名之典之清

川越銀治所名を中傳とせし母は孝なり
平日母乃中つけを背うべ
之か如くびまみえか登りてを
記居とうかふ家内也

はうい子依よのりまで慈愛を以て
のみをて下男をたし
多め渡忍象野山の金比羅一系清せし事
政府の御園は連一畝の特のりよは
年四月永く苗字を免許なり
洞をくくたま守を賞せし家

今泉村平治兄捨平

播磨郡今泉村百姓捨平は病父を相成り農業を
つとむりかひよりて平次は家督をゆづりて内人

となりて小家とつて母を養ふに別宅いづれも
 元よと愛さくしなれば物々も穠美なりとて母
 ましめ又味の美なるは益々儲けまき母にむらりもあ又何ぞ
 あすは母にお供ひしるの物便あども町寧はむつし
 此あはれ里迎取は居風呂たらしむをせんとて母を入湯
 せし免はきこふりきだんよく無うし至寒夜のおぼろ
 焚火あきて暖むせ又いづれも母のこれるにまうせ六七
 里も産むりひ所へ鮮魚あど買ははり何れも母のん次方
 子せびとつとてあし平次まぬの者も孝人のまは何れも日

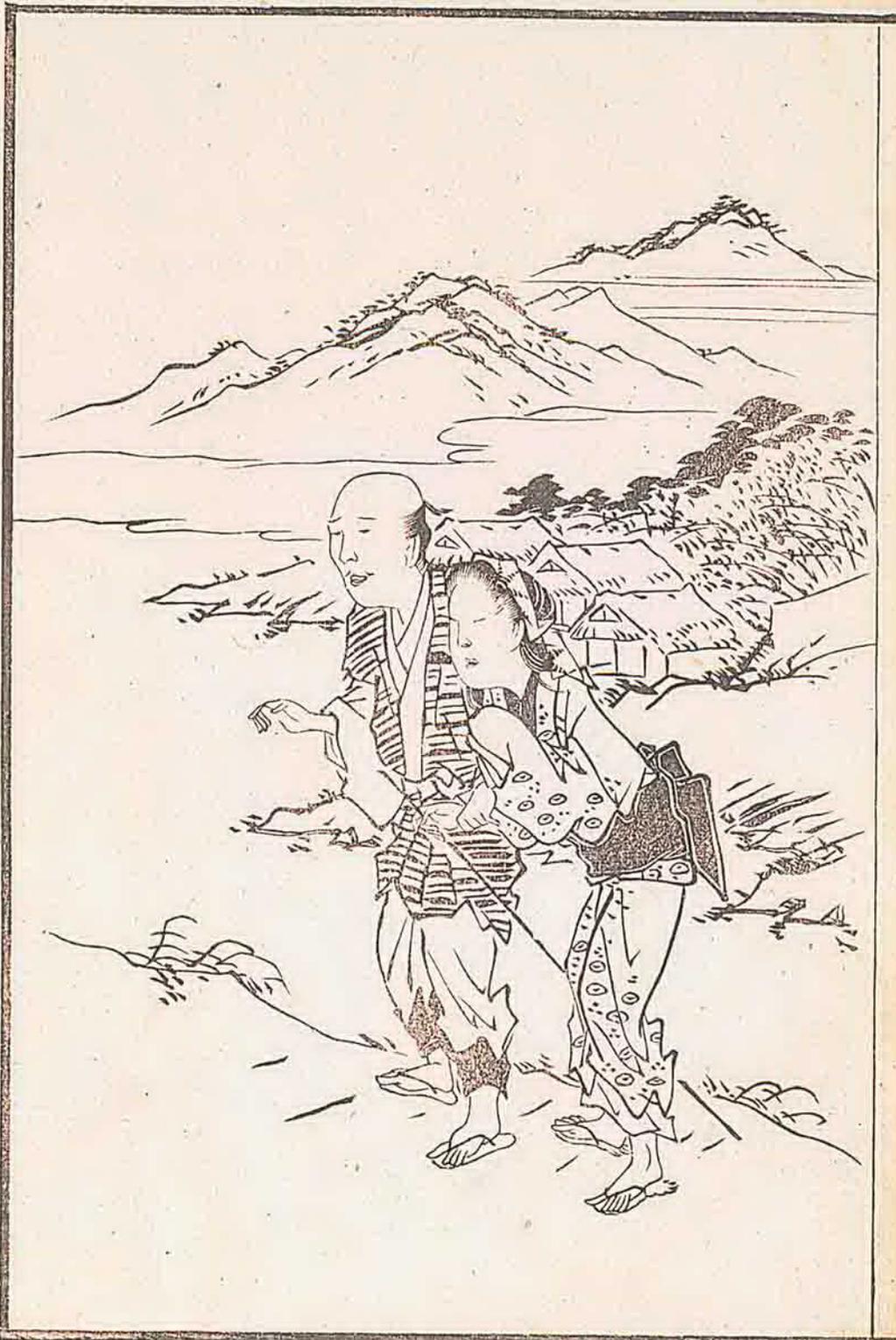
をやうし〜濃きよそのゆゑを流るる所へはけしきま
 政府の涉びよたつ〜文化元子年六月
 が〜もそ人技持や〜びよ時の賞と〜て高目成と〜
 おう子

大袋新田庄左衛門

入間野大袋新田百姓庄左衛門は其の時桑田村より
 生れしに其の妻もその村より同村より養子とて耕作
 を出情し〜れども其極めて多〜く志し〜しや
 父母の事にあひては衣履飲食をとりて母を便せり

ちかよのこはまゝとくを侍(さむらい)とつゝあはれ
 一それう(ち)父酒を
 嗜(たの)むこれをとれ(か)し御(ご)め又(また)ち
 派(や)生(せい)文(ぶん)月(げつ)あどいふ
 柳(やなぎ)のよを
 あまき(子)帯(おび)より解(と)れ
 一侍(さむらい)へき(ま)ば
 支(さ)親(おや)よほ(こ)ぶ(り)
 され(り)ふ(り)一(ま)た
 ち(ま)ぬ(ま)父(ち)母(は)乃(は)悦(よろ)ぶ
 を(を)見(み)て(れ)を(を)た(た)の(の)み
 と(と)一(た)れ(れ)せ(せ)し(し)折(お)り
 う(う)ち(ち)父(ち)へ(へ)酒(さ)肴(さかな)
 母(は)餅(もち)菓(か)子の(の)敷(し)を
 家(いえ)ち(ち)孝(こう)と(と)一(け)る(る)志(こころ)
 母(は)牧(まか)眼(がん)病(びやう)か(か)て
 育(ま)う(う)人(ひと)回(まわ)れ(れ)よ(よ)お(お)成(なり)
 ち(ち)一(い)つ(つ)て(て)不(ふ)自(じ)由(ゆう)の(の)身(み)
 分(ぶん)と(と)か(か)り(り)く(く)ま(ま)ば(ば)
 毒(どく)あ(あ)も(も)や(や)ま(ま)き(き)の(の)せ
 支(さ)親(おや)の(の)こ(こ)ろ(ろ)後(ご)又(また)ち
 懣(かな)ふ(ふ)て(て)に(に)女(おんな)
 抱(ま)か(か)ら(ら)ち(ち)を(を)う(う)ふ(ふ)て(て)
 後(ご)の(の)け(け)好(この)る(る)
 恥(は)あ(あ)れ(れ)む(む)子(こ)遊(あそ)ぶ(ぶ)と(と)免(ま)免(ま)母(は)乃(は)
 厭(いと)ふ(ふ)も(も)夏(なつ)の(の)菘(すず)乃(は)蚕(こ)お(お)り(り)き(き)耐(た)げ(げ)





下ノ三

名産をくくく改帳乃うらへいれそれ上は休ませ夫婦の者
 壺羽てりうぎ又字お不ゆる相束を火津をひきまら
 母と流糸くく暖めまぬもにそれまこく我はくもみん
 小うきく流妹いとゆきその三年に朱育目あり身も至て
 不自由なまふな流糸のまぬを流支親同やうー
 意を流くー二役それわの西も手をひきやういひ
 多うくくく流めて厚ー村里のくくも異手て感歎せざる者
 多うー
 政府これ始末を詳よ
 邦君よ
 後大は彼が誠孝なりびよ

乃ち一昔し小そあへんあを御つふより外化せし猪
 ちろこを公の所を見合せ父乃記おをうわしその
 まかど何ぞあつては和を兄ありにあを交配して夜中
 ちろこもてちろこ来り父母小まあ又何とてを海奥れ
 かほる看如合つてよこれすまは女の方へまてに
 里もあつてちろこ行田所までをちろこ好乃急をこれへ
 ちろこのあつてちろこあつてあつてあつてあつて
 けしきり洋よ

政府の御めされ

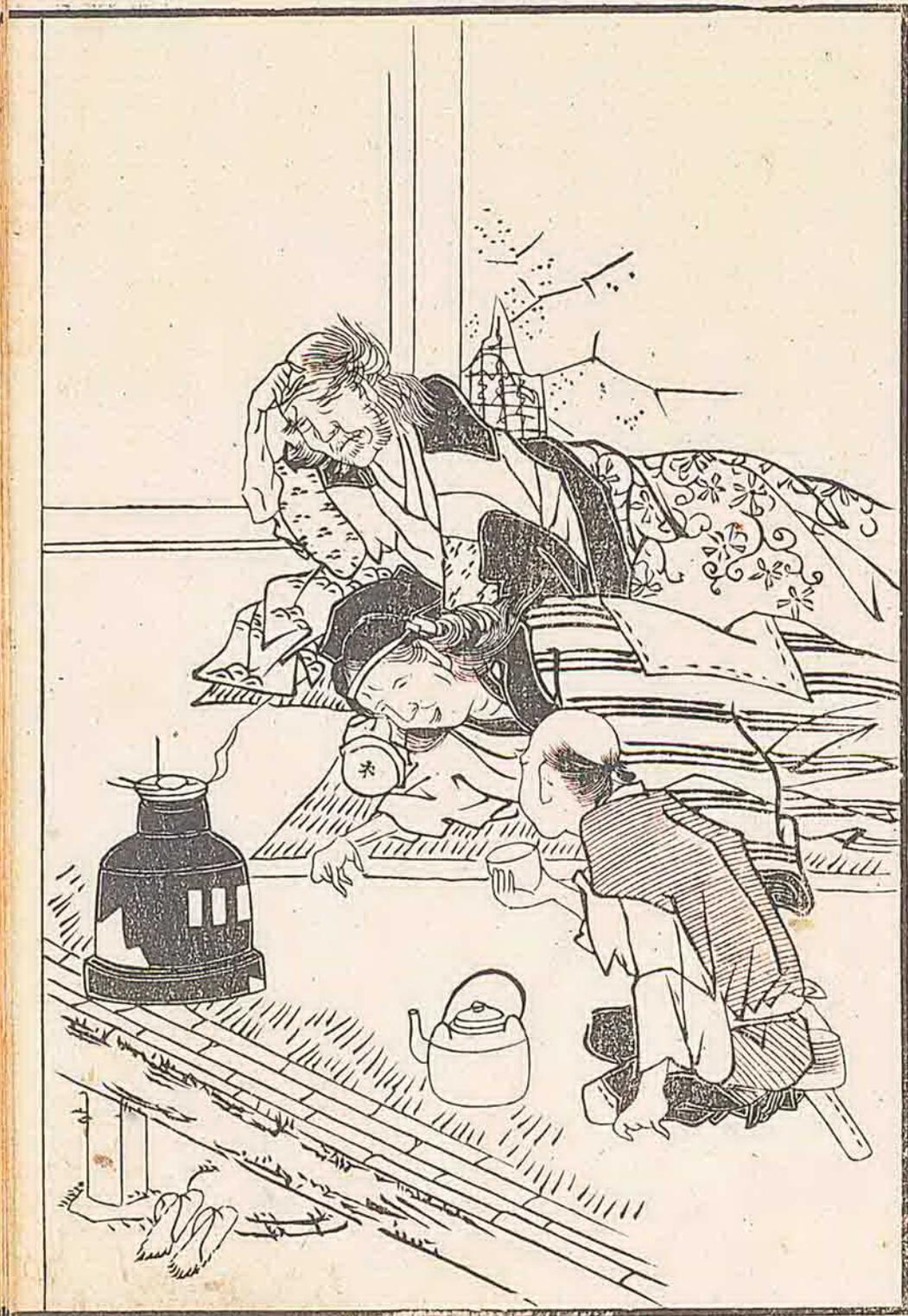
命ありて勝右衛門まぬりその生涯二人扶持これをまよ

下ノ七

ちろこれ誠孝を誇る

猪俣村源左衛門

那賀郡猪俣村百姓源左衛門は農業を以て其業を以て
 一それくお母おはちろこ何事にもおびんを伴へて
 けしきりそのちろこもおびんを伴へてお母乃ちのちろこ
 せげとちろこもその外郷里乃ちあちも深層をて一と
 者と及び祖祝おあまつてあちも人並よりをや納けを
 ちろこお母おさぐれおびんはれは柳召日光山へ訪ねた
 ちろこ去る去る一年二月おを伴ひおまらるとちろこあちのちろこ



下ノ八

かひふるよと云はれりし事一と云はれぬ事一を嘗てはひひふさんけり
以て一途中はれく我あへる處をけきば母のそほごびあは
うらやび近隣化郷乃人もけ事をけしきさうさう感嘆せ
ざらるる事一年比の孝終ふ
政府の涉聞一
速一有難も源太唐つ小き人技指ささうさうおろす干時文
化二年丑の六月乃あられり

廣木村大奥寺丘峯

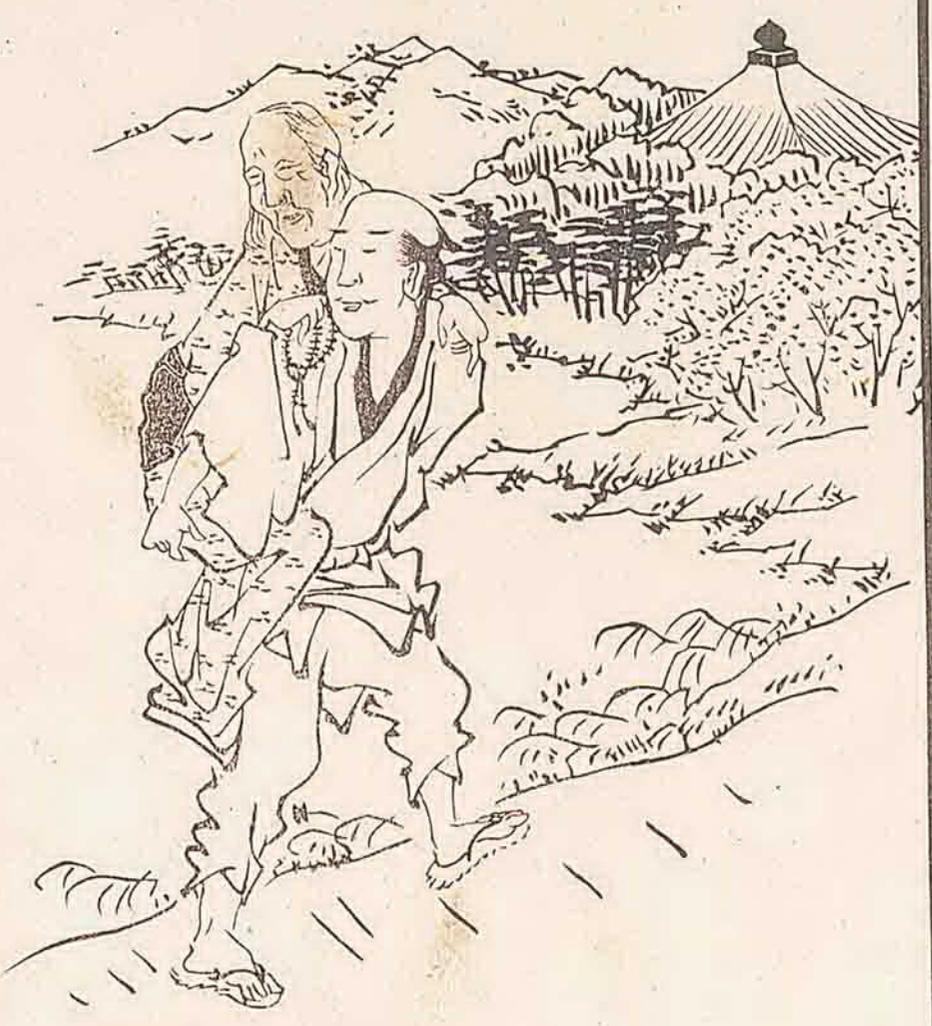
那賀郡廣木村臨濟宗大奥寺の當住丘峯と云ふ
佛の性質直諒しつて幼年のより師の順ひ素讀

書學ふど云はれりし事一師の剛率何事バ何事にさうび
ま先やふ能法と云成人はおうんで例乃坊隠居せ一乃
丘峯住職と云りし事一亦隠居一誠をけしき一何事をも
入用の所をこれいし事をけしき法衣をけしき一何事をも
隠居へまうしし事一師の著しき一乃法衣をけしき一乃
類のゆるく垢居きまうさば自分の苦用をけしきけりて費を
助寺役の非他也と云變てせお時一して隠居不使おふ
食事も居ざれを苦用のやうと云面一何事にさうさう
をけしきし事一の教自終りし事一何事にさうさうをけしき一

それ誠孝を誇る家

上川俣村老多傳

埼玉郡上川俣村百姓老多傳
孝あり常に家内おんまゝに相和するもの心多し
かまゝにさこと變てあゝ母を酒をささぐ好ければ
おろくともあゝおまこれをもも孫時おれ〜び史母の〜ら
一人づつ枕よつ子孫中〜の〜お〜なぐさち又百姓
傳守の〜ら〜新おあ〜ま〜招れあ〜ま〜つそのおを擧へ
母子傳〜それより〜ま〜り〜何ぞあ〜つ〜た志あゝおれ〜



埼玉王郡中曾根村百姓津左衛門母きよは幼年のころ戸へ
 まゝ人となりにおとんで同所を遊ぶ所といふ事と乃
 方一嫁一男子二人持てまゝのり申曾根村の実母老妻
 以て見勤め幾病ありて農業もはかまらりかねさ
 け之をたつて母兄五人の一人に戸れきよをへりて
 女抱ひてありて申曾根村役人ともて申すはりけれは
 きよは夫を助と相渡りてきよは津左衛門を百はき
 十九年日前母兄女抱ひて先村方へ引越せしむるに
 のら津左衛門を家なよとめけきよもふちられぬ耕作を



大里郡相と村の百姓安あつたをこれ生れ價りして
 農業者を以てりておほくもれへ母子事て孝とつて
 これよりて来る文化七年午の九月褒賞せりて
 青銅五甲文とておれどもおれども孝行
 とておれども日夜はをえて置ると此みおほくも
 公乃御恵を以てきりかこく母への孝
 善もつれとけりておれども家内を人をも毎言同根の
 百姓をれを家資乃當支むつてく安あつた末のより
 肥田へ乃食りおる後けり農業者よりてゆふまへて
 下十六

履草鞋あるひる縄をかひしれ價りて母を養育して
 一化へ出かつたをりておれどもおれどもおれども
 物もつたをりておれどもおれどもおれどもおれども
 をりておれどもおれどもおれどもおれどもおれども
 それのくんとはけりておれどもおれどもおれども
 遊奇特のおおおおおおお文化十年酉乃十二月
 再そ人糧をりておれどもおれどもおれどもおれども
 二十九年

世村御左衛門

政府の法々に



下十七

上総國堅陀郡安村の百姓部左衛門と
 吉平と
 者の侍にて幼少のとき母は難れそれら吉平後妻を
 むすび繼母乃吉平育つて成人なりけるまでもこのまれば生
 律義ありてお終へ孝如侍とけり持まきる田圃と
 うた二石餘まで家内五人とくくくくくくくくくくくくく
 いんやうたうた乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
 吉平死後小いとき同屋敷瀧野庄司村の百姓左衛門と
 中者も部左衛門が繼母乃實子にてけりくれはけ者うら
 部左衛門へ中ゆえり吉平死後吉平のくくくくくくくくくくくくく

の多とらふて留休め掃火よていりて先已が若せし布子
 きぬと母よきせまの世衝し〜我あへりける幼なる
 事ら貧窮患難はまはれとせし常に家内そのまじり
 孝弟の道を守れぬと隣里御堂挙てこれを称歎せ
 ぬといひしをこれ始終詳よ 政府よきこと
 り〜とらふて 君触す達せ〜はぬら〜これ美事
 を 感賞〜たまひ文化八年未二月勅在席つがを
 終までそ人扶持成〜〜おうれるを孝徳をあふさる。

牛子村林業

入習郡牛子村の百姓有きぬと長子林業を〜まれつと孝
 弟〜て父母小は〜て〜〜〜〜〜
 して小石姓やれむ松して負窮あまをれ〜母を去成の年
 たり大病よて農業乃あつ〜まは林業於終業〜を付〜
 食事〜母の〜〜〜〜〜
 も解くふらけが〜〜〜〜〜
 種々療養致つ〜〜〜〜〜
 け〜〜〜の〜〜〜〜〜
 け價め〜食養生や〜び不〜〜〜〜〜

志も子適あるも此を母の看病おこる家おとれ
若守に
似合ふる者時者として邑中乃人々もそれ孝を稱せざる
か—か子次第く—
政府小遣せ—
文政元乙寅十二月褒賞—
時林若二十を果やうりま

石屋富太郎

川越妙養寺門前子信石工金五員役外富太郎入
下奥富村百姓はたの之男出て去郊年令太郎父
若藏石工子奉公石抱ふれ質忠和律義ありて

職よくおぼえ出懐い—
昭々れ美を—
一相働き減小十六七果の—
二と及あり—
のゆても夜勤仕事—
家業出情い—
了同年十一月申死去い—
申すも—
けきばい—

武州川越善行録卷下大尾

下三終

下ノ二十三終

江戸町鑑

二冊

江戸町鑑 江戸町奉行所奉納の江戸町鑑を善行録に
添付し、押籠校日誌組力及日誌組日誌及附
江戸町火調組金簿等、并方角附江戸町之各組各
日町之支那等、江戸町中因各組日小名帳等、併
各名取表町之小名帳等、細く記し置る也

大金子見前用集

横中 大子一冊

世々多利集抄ありて、法入日利の字便とありの
判者最巨ありたあり、大冊或ハ細字あり、
器極名神の便とあり、今ハ一冊ハ、
たじ、世々多利集抄あり、
一々、世々多利集抄あり、
一々、世々多利集抄あり、

所集 中女用文集

横中 一冊

世々女用文集あり、
今ハ、世々女用文集あり、
今ハ、世々女用文集あり、
今ハ、世々女用文集あり、
今ハ、世々女用文集あり、

裁絶子目録

横中一冊

は、裁絶子の目録、
裁絶子の目録、
裁絶子の目録、
裁絶子の目録、
裁絶子の目録、

暦日詮解

全一冊

暦日詮解、
暦日詮解、
暦日詮解、
暦日詮解、
暦日詮解、

和漢朗詠園字抄

全一冊

和漢朗詠園字抄、
和漢朗詠園字抄、
和漢朗詠園字抄、
和漢朗詠園字抄、
和漢朗詠園字抄、

江戸書林

- 鴨 伊藤
- 英 平吉
- 山田 依勢
- 須永 彦文助

